温故新集

書札

下





書札下巻



一 綸旨并口宣御請文之事

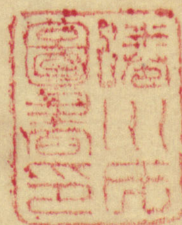
一 親王摂家江奉状并公卿殿上人江之事

一 御門跡并出世僧并坊官江之事

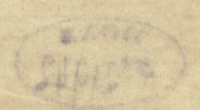
一 書状上包取様之事

一 進上目録取紙江書下取之事

一 下馬札之事









綸旨請文之事　付口宣案請文

被成下　綸旨之旨謹而頂戴仕候畢早速

可為─　一果操條候此旨宜預御参達以

恐々謹言

正月日　　　　　　山階左大臣

實雄判

三條大納言殿

凡右の趣之紙面ニ而文左府ハ実雄公左大臣

因茲宮寺之注進如此候

然
早進候
宮主従口
宜頂戴綸旨之様候可然候

宜取
中将殿
御参達
被成綸旨

正月　日

勧修寺中納言殿

然宮主従役　勅使旨別当被成宣旨被遣

厳密可被成忩々綸旨

名字実　名字判

何中納言殿

親王准后大臣納言同由事之旨此候

加様執之後山階内大臣記之也

女宣旨使書留綴之

此由可申入之旨被仰下候也

月日　名字実　名字判

勾當内侍ハ内侍ノ掌ノ中ニ第一臈ヲ云長橋ノ局ニ居給ニ依テ長橋ノ局ト云諸家ヨリノ所役也勅ノ奉ヲ書出ス女奉書ト云

勾當内侍之事

禁裏にハ奉文御奏者なる事に付て勾當也
内々の文ハ女房奉行に被付られ候長橋局とや申入
候也大臣なとハ必伝奏之公家の事上字
書名の時ハ下字も名と書名の時ハ下書名
あり女中へハ何段も勾當也長橋より大臣へも
誰まてものゝ

奏状之事

此旨宜預申沙汰候恐惶謹言

月　日　　名字官　名乗判

勧修寺大納言殿

頭辨殿

何茂中院之通茂卿奉書奏聞の一通を

是は私の書礼ハ不入之中院の人ニ封し候

中々之儀ニ而右之通無之達候也

右經少々不遠中清御清四季御清

とも可被申達

親王御家江奉伺公卿殿上人江達

右之趣言

月日　　名字　　名判

伏見殿　諸太夫中さまへ

一世ノ親王二世ノ親王定親王
ト云事有之伏見院殿定
親王也果進ハ四品ヨリ
一品迄五品ハナシ

私云此説承りてとや存せられ候へとも是にて一段ニて
不審候ハかゝり候

恐々謹言

月日　名字實　名字判

八條殿　由て説くしもや存せられ候へ
説此ことや存せられ候へと申之便へと過て書之
是不と世ハ優恕御記と云事ハ関白の筵

京極々家ニ二條殿の事ハ因親王之
中古より上皇連枝ニ而有貴家
混余事也然而依代々不相替准后親王居
於一事非の云者不及是非なり

依之謹言

月日　　名字

名判

二條殿人々中

一條殿へ如此

自余ハ先規も分別無之

従
御家門
家門様被成下 御書、右儀被為見候ニ付

其限ニ御座候而過日之通相移ニ相遂得其意

尤此上者下郎迄承知仕候、恐惶謹言

月日　名乗　名字判

殿上人ゟ
諸大夫江

来五日和歌御會之事被　仰出候条
巳刻以前可令参上之由可令洩達給候
御披露候也　恐々謹言

月　日　　名字実
　　　　　名字判

大膳亮殿　是ハ道澄殿の諸大夫之

法性寺太政大臣忠通
後法性寺摂政　九條祖兼實
普光園摂政　二條祖良實

清花の事大概同前之但相無公卿之摂家
ちかき頃おハ以摂家の事先一人ハ

後号
一條祖道家

近衛祖兼経

鷹司祖兼経弟兼平

法性寺入道関白後ニ流嫡為流之道家九條

兼之道家流又分為二九條又分為三道九二一

鷹司兼之清花の事転法輪徳大寺花山院

久我西園寺大炊御門今出川兼之

院ニ参ルヲ
院参ト云

今猶右之能殿中申次役之公家ニ当

御家　内之事宮中ニ仕ル之者之重職必公家

関東下向之公家必伊勢伝之

月　日　　名字書　名乗判

勧修寺殿人々御中

右此銘之大綱を被示付書院之勧修寺

冷泉家為井関之條數大概同系之中なと

同此數之條數ハ一応書院の要也君臣の上に

名字書へし

御座所ヲ台盤所ト云　御膳ヲ朝餉ト云

此日就御連歌之御會始家の條かく言承ハ

為御祝儀て御能被仰付候旨ニ　御出可被遊由ニ付

恐々謹言

月日　名字實名　名乗

某藤等安敬々白

四位中少将侍従等ヲ殿上人トスリ

殿上人へ一八大旅ゟ呈

昨日御鞠　上覧之節御感ニ預り拝受之事ニ

拝見系中上下ニ存候以恐惶謹言

月日　　公家衆　免許判

五音
聲音并敵を破ル　又口伝申也

此家前ゟ御方ニ申事共ハ親父存生の時の

事之聲音并中ヲ敵ヲ破事ニハ御方と成

御書眼付を読ミ也事也　當時ハ人々

中之敵と人とハ貴殿下の公家の事も

公家衆ハ参候以上の事也公儀の内々と

大納言殿一段当職之拙家者御免ハ被召之下

甚以浅度之御儀不及当職之商成哉

公家之大臣家之法親王当職之

此方之儀家門被御使者御悦喜不可有御

遠慮候申入候以其心得可申沙汰候也令申候

恐惶謹言

月日

名字実

名乗判

渉獵書史全綴之

凡此録也、問ノ諸書史ニ委ノ三種神器ノ事ハ

営猟之全綴之以在者也、猶神祇諸書史在

神祇之諸家の諸書史ハ在紙ニ記し大概

同種の事也、細密明ニ知者有之以上ハ

外記官務ハ史官ノ司也

為己存之、同種〻密之外記官務、社家

此下三種神器ノ諸書史、同事也、社家の内

吉田二位松梅院并ニ伏見殿之聖護院道を

同前之

御門跡方坊官江之事

年始護持僧御祈正月八日ゟ御祈

御對面五荷五種例年之儀ニ候ニ其外門跡之事ハ

此節ハ式日之例ニ而五荷五種宛ニ而被進候の

為出世證状如件以宣旨中入法以為證候也

月　日　　名字書　名乗判

何某法印御房え以

右ハ青蓮院殿の坊官之大概拵家同前なり

又ハ御法師とも號候法之律師坊官ハ小

右ハ法之之外ハ書事出世ハ其之外格之

護持僧ハ青蓮院殿大覚寺殿其外聖護院殿

花頂殿・曼殊院殿・三宝院殿也、宮御門跡ハ
仁和寺御門室・梶井殿・青蓮院殿・妙法院殿
下河原殿・浄土寺殿也、摂家門跡ハ[illegible]殿
脇門跡ハ宝[illegible]寺・[illegible]院・[illegible]院・花[illegible]院
様也
今度別而親王御念ニ[illegible]被為[illegible]思召入ニ
諸[illegible]御能向[illegible]ニ[illegible]入ハ[illegible]

月　日　　名字實　名字判

寶香院　御房中

先度者参上候處御取籠中預御懇志難忘候

御陣之折節綱之思召而為相見候之儀之

月　日　　名字實　名字判

菊坊

就前之於法之跡江難成話之趣候以参上之

余入下面謁之節候也

月　日

名字官　名乗

備中法眼御房　参人々

従門主様殿下御書被遣之意為賀詞頂戴

被役以陪臣次位下以銀果等甚宜被仰下被成

使者以相使之示為祝儀以白銀三枚被遣候

之儀候也

月日　某官　名乗判

菊亭御房

一　綸旨御請文

三條大納言殿

山階左大臣實秀

一　親王宣下御禮

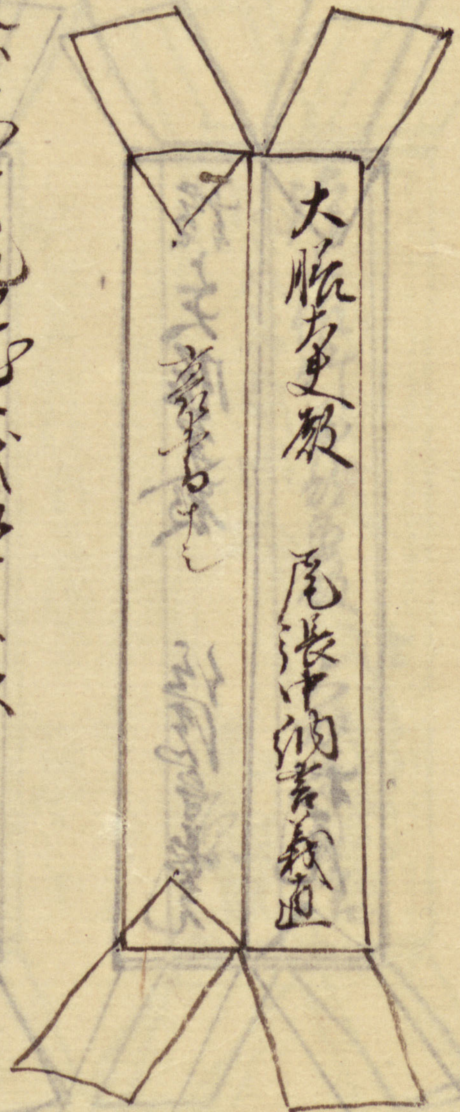
伏見院殿

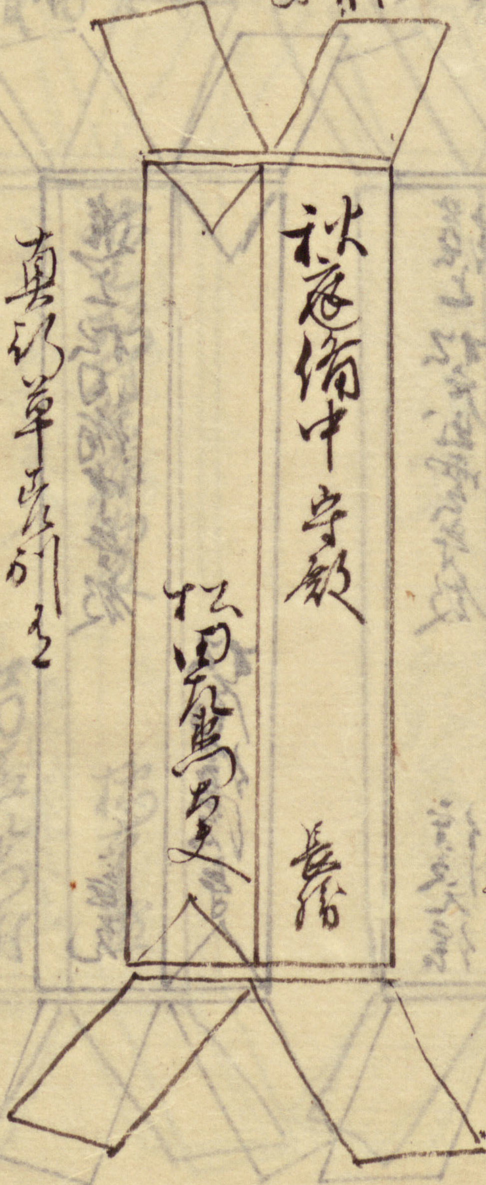
山階左大臣實秀

一 折紙一枚添状
大膳大夫より
尾張殿の添状
の人々

一 表書の事
書札の法ニおいてハ不書札也既ニ武家方ハ限表書とも書す
公家中より武家江遣之武家方ハ只今表書遣之

一 並檜紙折紙状
留之折紙状の
時ハ同前ニ而
下ニ宛所を書
候し





真紙草書形也

一 進上書ハ目人ニ
書状ハ口傳
又脇進上ト認
候も書状ニ准ず
可認之

一 右ハ脇書
人ハ名字のミ
氏ト申口傳

一 謹上ハ至而
高官之人ハ
其の字ノ御中
准ぜる之口傳

進上 松田備中守殿
松尾信濃守
長光

謹上 松原出雲守殿
二階堂
信濃光信

謹上 大膳大夫殿
信濃守長光
松尾

一 同事ハ此様
内封書之の上の
此者不ハ状を謹上
半小ハ礼紙之

謹上 佐竹民部少輔殿　大和守国信
原

一 是ハ下書書之
内封書之の上ハ
とし是ハなく
とまり下半とハ
書縦之

謹上 松下出雲守殿　大島安房守

一 意之の人ハ書状
下書ハ是橘重
稲葉と半書不稲
と中と認之同日状
の時ハ此方の状を
不半口伝

謹上 松村兵庫助殿　橘重盛
稲法印射

一 是ハ上の札書
御進物折かし
折手之

庭中於路次

京九宗吉

一 直札共ニ別ら
躰方迄可認

大膳亮殿
参人々御中

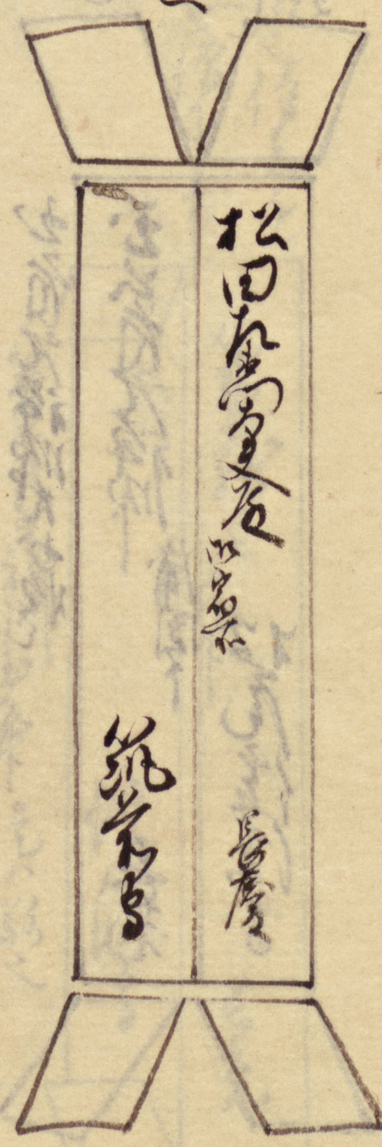
松尾信濃守
長光

一 是も表札の
当流之外ハ
下り口傳

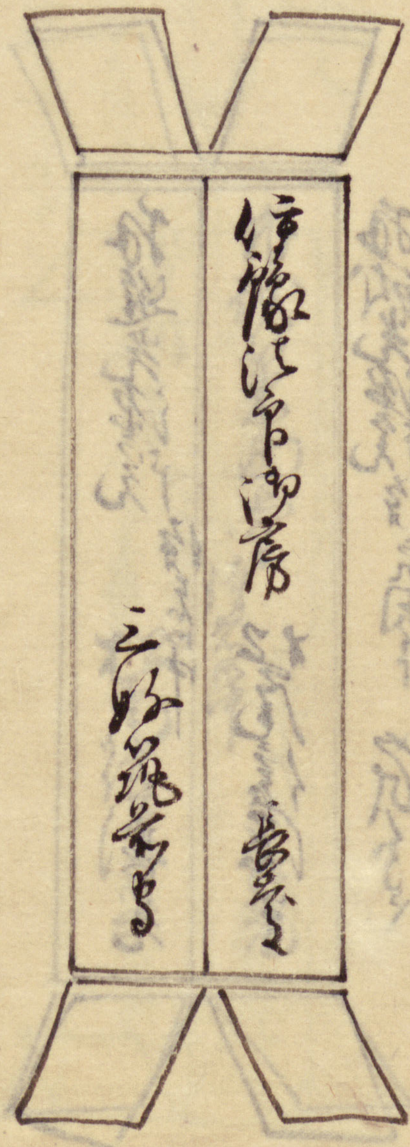
山名兵庫助殿
人々御中

松尾信濃守
長光

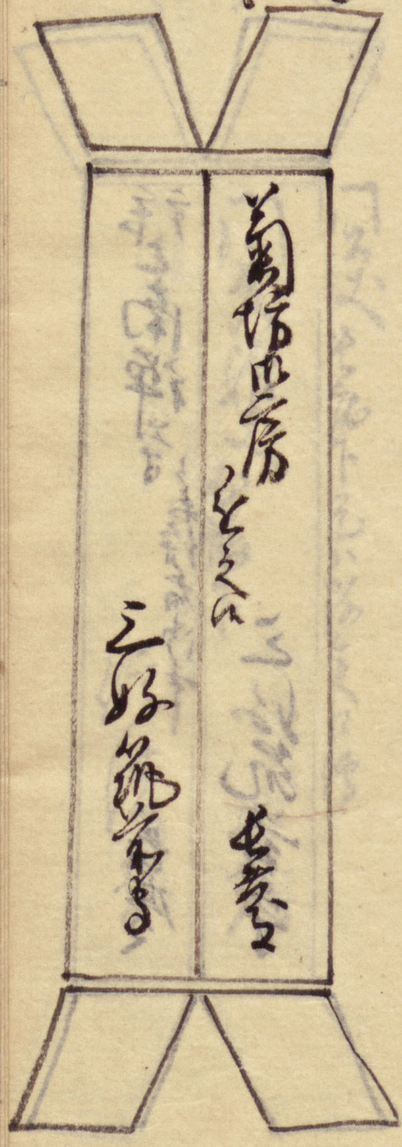
一 下書の認之
首ハ同書也
用と以下ハ下書也
秘口傳



一 是ハ一つ書事也
武家法進之の
相承様也



一 是ハ一つ書の後也
文章法師相公也
同前也



一 芝神明前花
錦光院へ取寄候
翌日傳

京都南禅寺
長老侍者御中　長慶
三好筑前守

一 同書花の添之
右より侍之

相模光源院 侍衣閣下　長光
松尾信濃守

相模光源院 侍衣閣下　花氏之

一 芝ハ前光公の筆之
一寺ニの候故之しハ
寺ニ後長ニと書シ
玉雲前光禅師と雲
別ニ取候

玉雲前光禅師 侍閣下　長光
松尾信濃守

玉前光禅師尤方様

一 宅飛脚への紙之仕方と
大概是ニ而作去候事寄
可仕候なし

第一座 几下
従清書 某元

第一座之禅師 玉案下 是ハ脇付之

一 西堂へ八分折
其外隠居等
も紙へし

相国寺西堂 侍者御中
松尾信濃守 長元

一 喝食への紙
其人ゟ小うり
宛ら仕候て

門侍者 玉帳下
従清書 某元

此文之玉帳下ハ脇付之口伝

一 聖護院
是ハ別ニ認之

東光寺 衆徒中
貞信
原左馬助

一 同所之出家衆
右之者よりは
無之

実相寺 山居中
貞信
原左馬助

一 是ハ同所之の跡ニ
但シ右跡家ニ而ハ不及
玉床下ニ而ハ出家衆ニ
床下ニ而ハ出家衆ニ
床下ニ而相済し

金光坊 玉床下
貞信
原左馬助

一 花ハ下半一之
口傳

金光院 殿下

左馬助 自信

一 花ハ程ん下半之
金光院ゟ上るとも
口傳

金光院

專斎 十二

自信

一 花ハ浄土宗への題
寺方の出家衆也
其外ハ家に寄早
不定

知恩院 表侍者 閣下

自信

京左馬助

一 包ハ右よりハ順し
口傳

一 包も浄土宗之同宗之上下と
押紙常光院号を書紙ニなし
して寺方の名字を除て
下書之口傳

知恩院 尊床下
原左衛門
貞慶

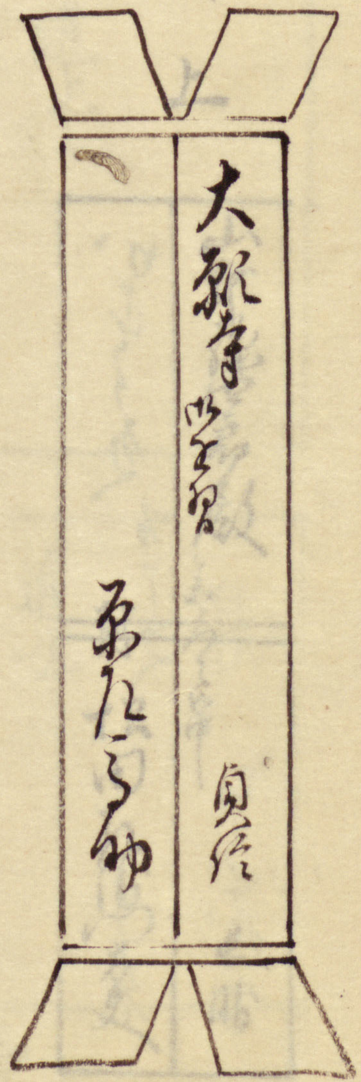
阿弥陀院 尊床下
原左衛門
貞慶

一 拾坊主ハ此趣之
浄土宗寺より
遊行上人え下書し

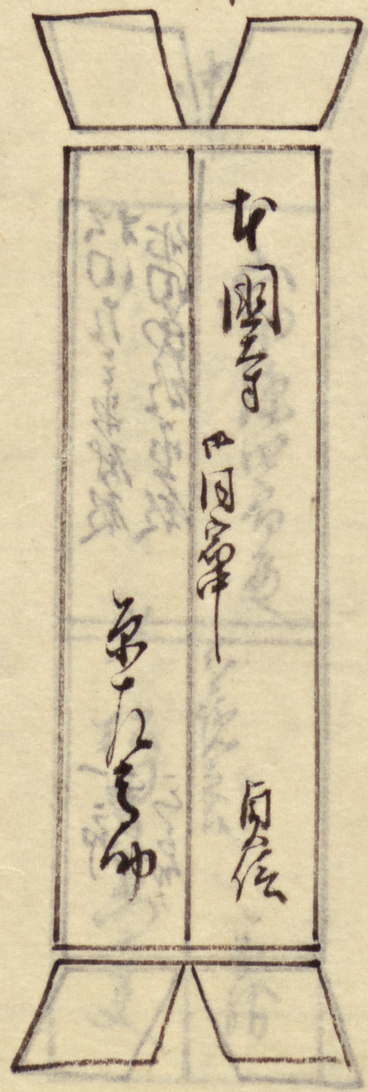
遊行上人 え事遊行役人中
長慶
三好筑前守

紙ニ書名下えて書し下り之

一 時宗之人ハ如此



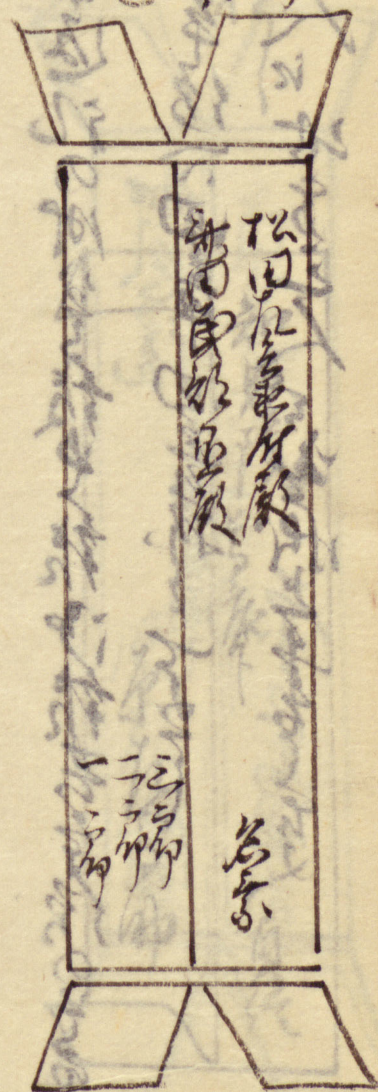
一 日蓮宗之人ハ総
俗名勅許僧之
官名礼法號之御
寺ハ何寺中と
書へし



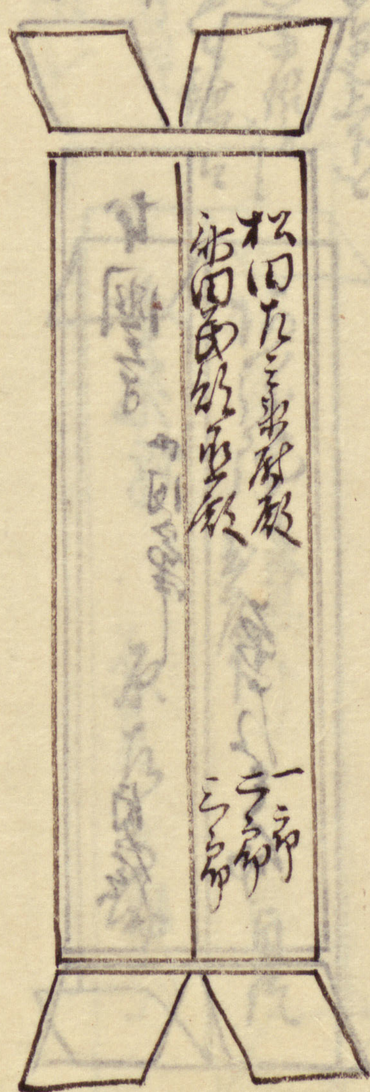
右ハ宗何宗遊礼の時ハ其筋其寺院の名字と
本寺ハ何宗何寺触下四寺院ハ何寺触下と書へし

一 武人ハ此方之人ニ出家帳上書之事

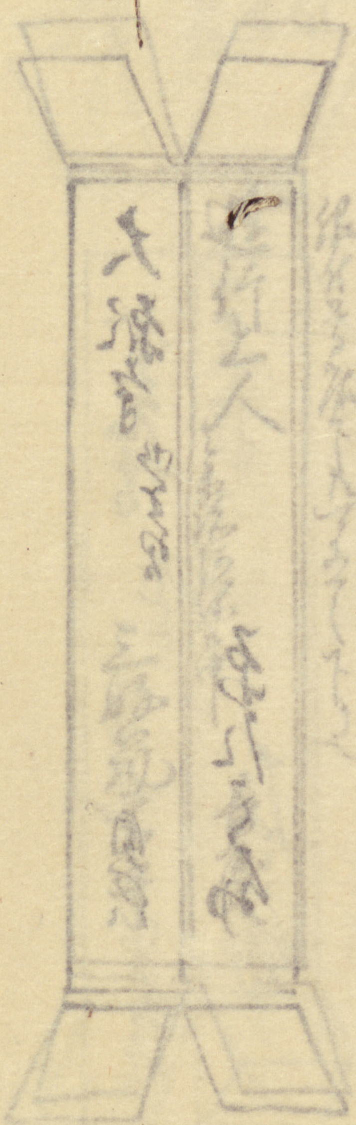
一 表ニ此方ゟ名を書
時ハ奥ニ名字ハ
上前を（のせ申）



一 同表に此方の
名を書時ハ如此



一 腰文之事



上

山本源四郎殿 [illegible] 出勝

対 松田左馬之丞

中

山本源四郎殿 [illegible] 長勝

又 松田左馬之丞

下

山本源四郎殿 [illegible] 出給

又 左馬之丞

一 女中江の文口傳

上

かしこ返事つゝしみて申上候　ちよえ

封

山もとさこん女

中

かしこ返事つゝしみて申上候　ちよえ

封

山もと　さこん女

かしこ返事申上候　ちよえ

封

ちよえのかる

一 公方様江従諸家上ル折紙調様書法并口傳

進上	御太刀 一腰 行平	御馬 一疋 鹿毛 印	万疋	以上

細川右馬頭
勝元

進上	御太刀 一腰	御馬 一疋	以上

松田越前守
貞信

馬代
書様
口傳

一 三献の題之此方人躰小依天少も可調之

謹上 左馬大夫 信元	御太刀 一腰 金作 御馬 一疋 鹿毛	進上
以上 信元	御太刀 一腰 糸巻 御馬 一疋 河原毛	

献の題之書此方の体依て使字も同
口傳

一 同岩之外之
岩鼻之八口傳

青
白馬

	青 一纏	馬 一疋
呼		

	清青 一腰	清馬 一疋
呼		

萬傳
書之
口傳
汁
汁
以上依
作之

一 家ハ
行致
如之

一 下之
名
口傳

	高 上 一之	当 一級
心	小馬 一之	賞 一級

一 下点ハ
調之口傳

何も添時ハ
当と高との
間ニ入
平之の時ハ高
より先小書し

一 折紙裏書之事

正月二日 林新助 名乗判
誰殿

正月二日 誰門
林新助 印
一 筆

右御刀為代金拾枚令 極所依如件 正月下 何某内 林新助判 吉田某殿	右ハ新身の極書也 是ハ八重不書き 写し	
長光 [illegible]	在一 中心	無一 浮口

目録

總掛	壹	十合
折		二
山鳥		一
白鳥		二
鳫		一折
鯛		一折
鯉		十荷
樽		
延		

已上

樽屋殿

是ハ目出度の節進上ハ其品々あるに
不及常体の時ハ進上書様ハ御酒の字と
書也但此時ハ目録ニハ其品々認たり
添又目録ニハ紙一枚折て調候へハ
時ハ品々を書て又ハ一ツ書ニ書也
認むる事も有之と心得候

調様の次第

壱番ニ雉子ニて山鳥ニて白鳥
四ニハ魚ニて海魚ニて樽
但目録ニハ鯉より鯛等を上ニ認候

一 男の方より
女中へ出す目録
但是へ(この類)
又
こんぶ一折
するめ一折
れたる一ッ
已上

し
し

一 紫色口傳

表書 つたまのき ありえ 已上	かん 一 たい 一折 するめ 一折 添たる 二り	寿と

こたん屋 きさえ 已上	かん 一 たい 一折 たこ 一折 添たる 三り	寿と

一　女中より此目録の事

調様并口傳

目録　一	かつを　一おり ゆきて　一おり やまぶき　一おり	おたち いと　二ツ よし田 たちの助　印

	返	

是ハ目録の題書様并かへし一通に女中時ハ証名ても口傳

一 下馬札之事 二字札也

死活の息 密露也 息大祕事

新城并氣色肝要之



大平 擶手書様ハ口傳

神前佛前出様ハ口傳

板の寸法無定法ハ口傳

右此一冊者雖爲秘吏依御執心深
懇記進之畢努〻不可有外見者也

水嶌卜也

之成

寶暦十二壬午年　十月　日

横山三郎右衛門　時連

早川茂右衛門　爲逢

原田傳内

村田小平太　元陳

村田小平太

寳暦十二壬午年

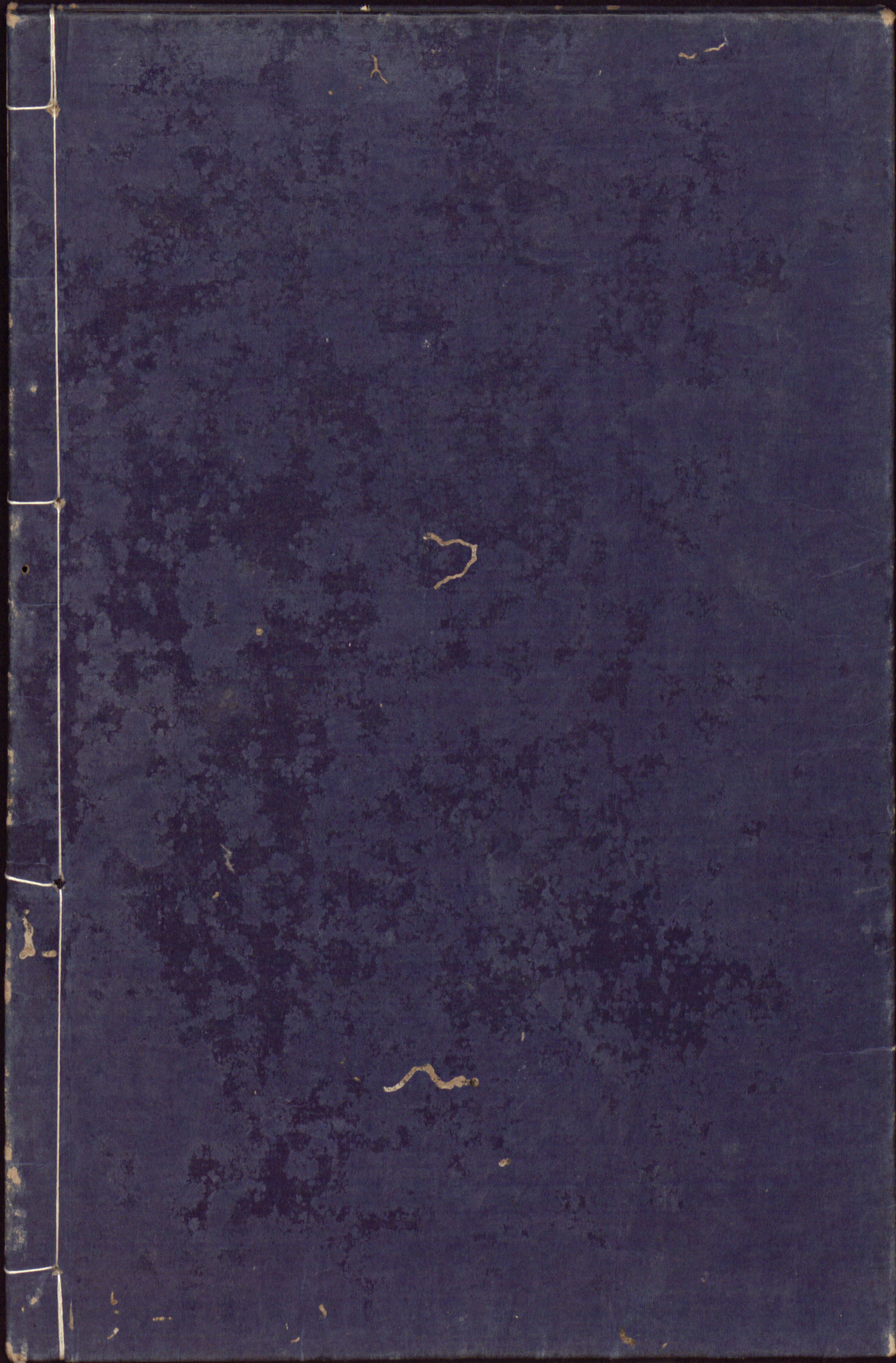
十月十日

信今





津村作郎殿




H+K 2
GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart
15.01.2002